

第 2 章

新しい多様で柔軟な教育システムの構築

これからの社会では、主体的に学ぶ力や社会の変化に柔軟に対応できる力が必要とされています。

府立高校では、一人一人の自己実現を支援するために、新しい多様で柔軟な教育システムの構築に向けた改革を進めます。

今後、普通科の一層の特色づくりの推進、新しい時代に対応した専門学科の充実、生徒の多様なニーズにこたえることのできる総合学科の増設、新しいタイプの単位制高校の設置、中高一貫教育の導入等、生徒の主体性や多様性を一層重んじた教育環境の整備に努めます。

1 普通科の特色づくりと多様化

全日制普通科
の類・類型を
めぐる状況

昭和60年度の高校教育制度の改善によって、全日制普通科においては、学習に継続性・計画性を持たせ、教科・科目を系統的に学ぶことができるよう類・類型を導入しました。類・類型の下で、各高校は、希望する進路の実現や体育・スポーツ、芸術文化活動などの面で大きな成果を上げてきました。

しかし、その後、生徒の興味・関心、進路希望などの一層の多様化や同一の類型の中での学力の拡がりなど、新たな状況が現れてきました。また、生徒数の減少により、既に一部の高校は規模が小さくなっており、類・類型の維持が難しい高校も出てきています。

普通科の特色
づくりと多様
化

今後は、普通科の特色づくりと多様化を一層推進するため、教育課程の編成を工夫し、多様な特色ある類型の設定を進めるほか、類・類型間の移動をより弾力化するなどの運営面の工夫も進め、生徒の能力や個性の伸長、希望する進路の実現を図っていきます。

また、社会の変化や入学してくる生徒の興味・関心、進路希望などの多様化の状況を踏まえ、これらに適切に対応するため、生徒がより幅広い科目の中から選択ができるよう総合選択制や単位制等への転換も進めていきます。

普通科の多様化

普通科総合選択制

普通科総合選択制は、生徒の興味・関心を高め、進路に対する目的意識を育てるための特色ある「コース」を設けている点や、得意分野の学力を伸ばし進路希望を実現するために、多様な自由選択科目を設けている点に特長があります。類・類型の系統性と単位制の自由選択制のバランスをとった新しいタイプの普通科です。

単位制

単位制は、学年の区分がなく、一定の必修科目の履修のほかは、本人の興味・関心、進路希望などに応じて科目を選択して、自分で時間割を編成することができます。

今後は、ここに述べたように、生徒の科目選択の幅を広げるために総合選択制や単位制による普通科の設置を進めるほか、当該高校の規模や進路目標などに柔軟に対応するために、それぞれの普通科の特色づくり、全体としての多様化を進めます。

2 新しい時代に対応した専門学科の充実

専門学科を めぐる状況

今日、我が国の産業界は、高度情報通信社会の到来や、経済のグローバル化の進展とともに、産業構造や就業構造の変化など大きな転換期を迎えています。

こうした状況の中、京都府教育委員会では、京都府産業教育審議会の「提言」を受け、平成15年度に、情報に関する専門学科の新設や海洋高校の学科改編を行うなど、産業界の変化、生徒の学習希望や進路意識の変化に応じて、教育内容や教育方法の見直しを進めているところです。

府立高校は、これまで各専門分野の知識・技術を身に付けた優れた人材を産業界に送り出してきました。しかし、近年は、企業がより高度な専門性を持つ人材や即戦力となる人材を求めるようになるなど、高校の専門学科で学んだ成果を卒業後すぐに生かせる場が少なくなってきました。こうしたことから、専門学科から大学等の上級学校への進学希望者が年々増え続けています。

これからの専門学科は、今日の社会のニーズにこたえられる専門的な知識・技術を高校3年間で身に付けた生徒を産業界に送り出すとともに、更に高度な専門性を身に付けるため、大学等の上級学校に進学することも視野に入れた教育を展開することが必要となっています。

また、嵯峨野高校京都こすもす科や園部高校京都国際・福祉科のような特色ある教育を行う新しいタイプの専門学科は、教育内容、指導方法、進路など様々な面で実績をあげ、府民の大きな期待を担うようになっていきます。このような新しいタイプの専門学科を一層充実・発展させる取組も重要となっています。

専門学科の 充実

今後は、社会や産業界の変化・進展に対応し、生徒の学習希望に合った教育内容を目指し、教育課程の見直しや学科の改編を行います。

また、高校3年間で各専門分野の基礎的な知識・技術を身に付けさせ、卒業後すぐに実社会で活躍できる力を育てることと併せて、大学等の上級学校への進学を目指す教育課程、教育内容、教育方法の充実を図ります。

さらに、特色ある教育を展開する新しいタイプの専門学科の新設についても検討していきます。

3 総合学科の今後の展開

進路を開く 総合学科

生徒の学習ニーズや進路の多様化に対応することが求められる中、総合学科は、普通科、専門学科に並ぶ第三の学科として創設されました。総合学科は、生徒が、自己の進路への自覚を深め、普通科目と専門科目の中から学びたい科目を選択し、主体的に学習できることから、多様なニーズに対応できる学科として全国的にも期待されており、各都道府県で計画的に設置が進められています。

京都府では、学校・学科の特色づくりの一環として、平成10年度に、久美浜高校に設置しました。総合学科の特色を生かした、幅広い進路希望にこたえる教育を展開しており、特に福祉系列では、介護福祉士の資格取得など全国的に注目される実績を上げています。

総合学科では、生徒一人一人の学習希望や可能性にこたえる多様な科目と、これらの科目を選ぶ目安として系列が設定されます。また、単位制の柔軟なシステムにより運営され、生徒が進路への自覚を深め、興味・関心、進路希望などに応じた適切な科目選択ができるよう各種のガイダンスも行われ、一人一人の生徒の学習を支援します。

総合学科の 増設

生徒が、京都府全域から総合学科を選択し通学できるよう、京都府南部地域（京都市・亀岡市以南の地域）に2校ないし3校の総合学科を設置します。また、京都府北部地域にも増設を検討します。

総合学科の特色

単位制による教育課程 少人数講座 きめ細かなガイダンス 充実した進路指導
学校外での様々な学習成果の単位認定（学校間連携 高大連携 ボランティア活動など）

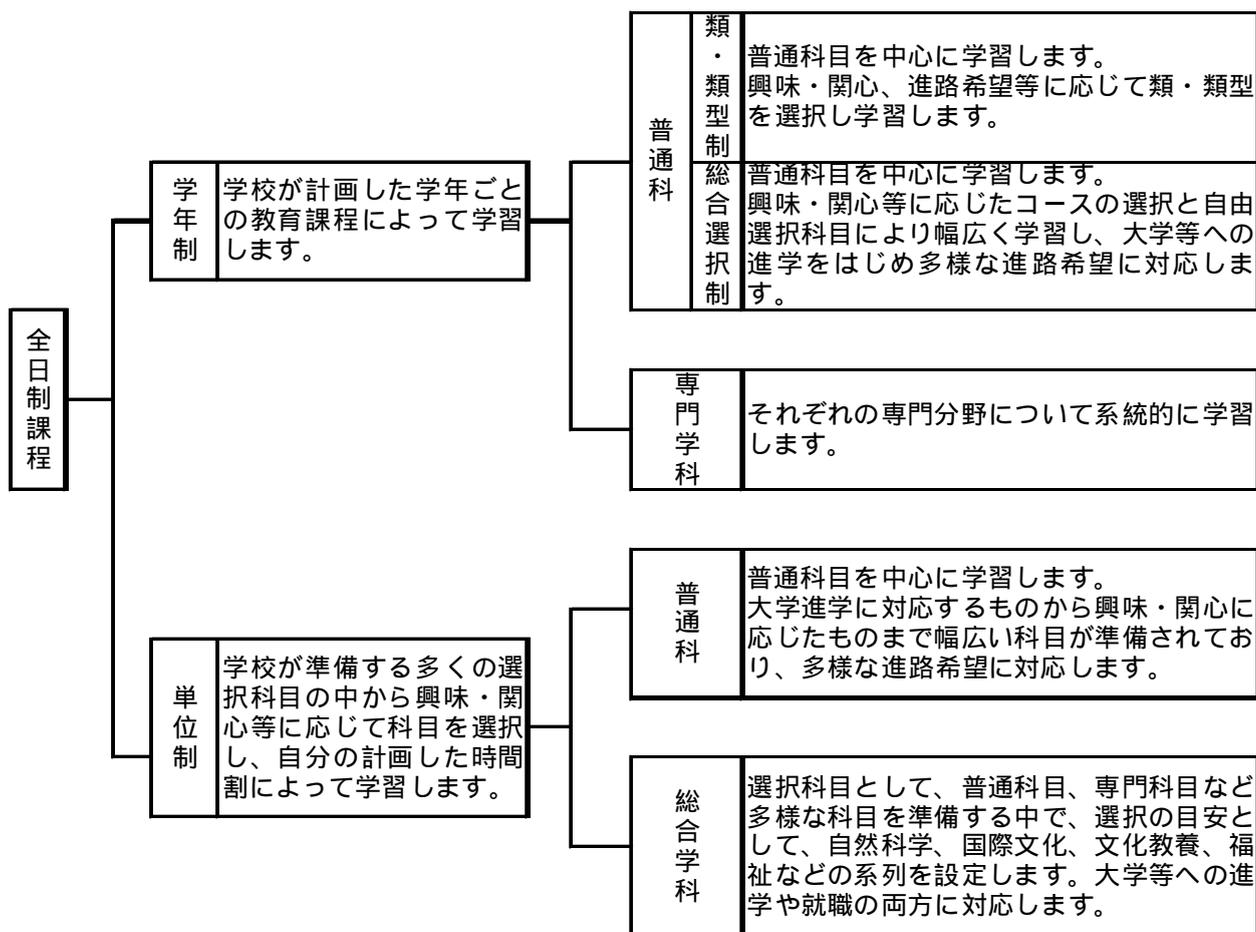
さまざまな学び

基礎・基本を重視した学習 大学進学に対応した演習的な学習
資格取得・検定合格に役立つ学習 就職後すぐに生かせる専門的・実践的な学習
大学進学後の専攻分野で役立つ学習 教養として身に付ける学習 など

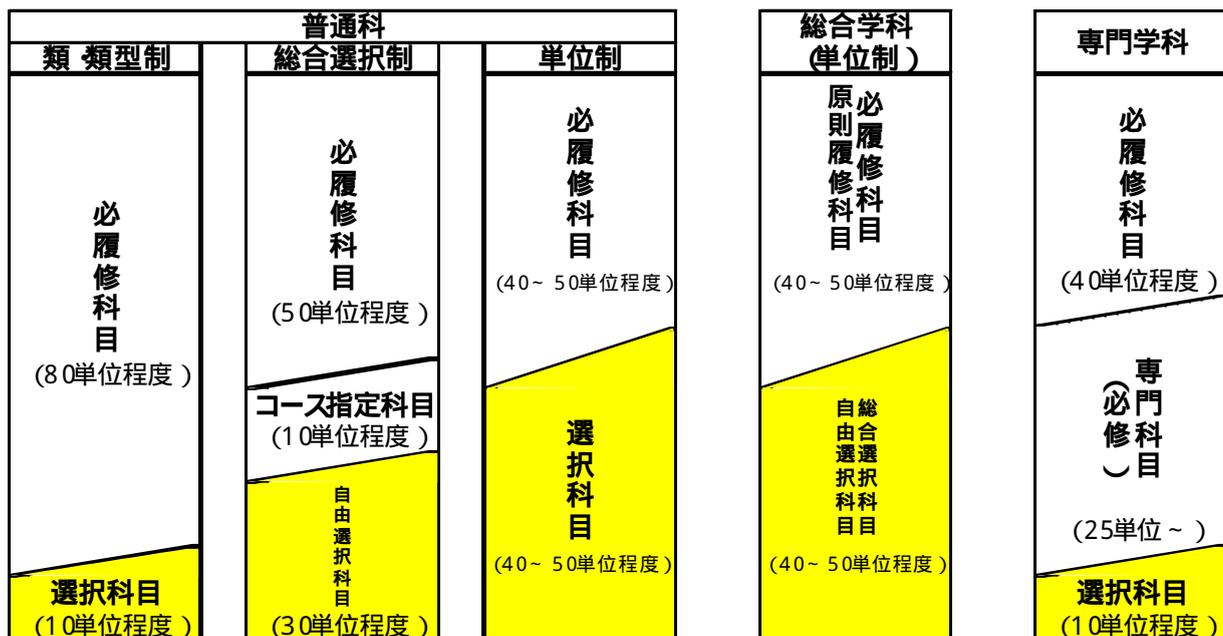
必修科目（高校生の必修科目）
原則履修科目（「産業社会と人間」）
選択科目（系列ごとに設定された特色ある科目（総合選択科目）+ 自由選択科目）

自分で作る時間割

全日制の学科の体系



学科・履修形態別選択科目単位数の目安



4 新しいタイプの単位制高校の設置

新しいタイプの 単位制高校 の設置

新しい多様で柔軟な教育システムを構築するためには、多様化した生徒の様々なニーズに的確に対応する高校を設置することが必要です。

自分の好きな時間帯に自分のペースで学習したい生徒、より体験的・実践的な科目を選択して幅広い学習をしたい生徒、転入学や編入学により新たな学習の場を求めている生徒、あるいは生涯学習の機会を求める社会人などにも、適切な高校教育の場を設けることが求められています。

こうしたニーズにこたえるためには、単位制の柔軟なシステムを活用することが適切であり、従来の全日制、定時制、通信制の枠を超えた新しいタイプの単位制高校として構想を具体化し、設置していきます。

生徒の多様化

今日の府立高校には、様々な学習ニーズを持った多様な生徒が学んでいます。

全日制にあっては、学習時間や学校生活において自分なりの在り方を求める生徒、もっと自由に自分のペースで学習したい生徒なども在籍しています。

定時制は、元来勤労青年に高校教育の機会を保障する趣旨で設けられていますが、ここ数年は、様々な動機や学習歴を持って入学してくる生徒の割合が高まり、在籍者の90%以上が非就業者となっています。

通信制においても同じように、勤労青年だけでなく様々な入学動機を持つ生徒が増え、在籍者も増加しています。

柔軟性を 追求する

新しいタイプの単位制高校は、様々な生徒がそれぞれの興味・関心、進路希望などに応じて科目を選択したり、希望する時間帯や時間割で自分のペースに合わせて学習できるよう、柔軟なシステムを追求した高校（フレックス・ハイスクール）とします。この高校では、学校での授業と通信教育を組み合わせた学習もできるものとします。

新しいタイプの単位制高校

新しいタイプの単位制高校（フレックス・ハイスクール）の特長

単位制 ... 多様な科目の中から興味・関心、進路希望などに応じて選択し学習
1時間目から最大12時間目までの授業を準備し、生徒それぞれの希望に応じて学習時間帯を柔軟に選択することが可能
74単位以上で卒業が可能

弾力的な単位修得 ... 検定合格、資格取得、ボランティア活動など学校外での学習・活動を単位として認定

転・編入学の弾力化 **生涯学習への対応** **通信教育の活用**

5 中高一貫教育の導入

京都府でのこれまでの取組

中高一貫教育は、従来の中学校、高校に加えて、6年間の一貫した教育も選択できるようにして、中等教育の一層の多様化を進めようとするものです。

中高一貫教育は、生徒の心身の急速な発達段階における精神的・情緒的なゆとりが持てる、6年間の一貫した教育計画の下での深みのある教育指導ができる、幅広い異年齢集団により相互に啓発されるなどの長所があります。こうした長所を最大限に生かすことによって、生徒の個性を大きく伸ばしたり、豊かな人間性をはぐくむことが可能となります。

また、地域性を生かした教育、自然や科学への興味・関心を高める教育、国際感覚を身に付ける教育など、特色ある教育を進めることができます。

京都府においては、これまで京都府中高一貫教育研究会議や中高一貫教育研究校を設け研究を進めてきました。また、府立学校の在り方懇話会の「まとめ」においても設置が提言されています。

中高一貫教育校の設置

京都府においては、既設の府立高校に中学校を併設する形の併設型中高一貫教育校を設けます。また、連携型などの他の形態の中高一貫教育校の設置も検討していきます。

中高一貫教育校について

中等教育学校

1つの学校として、6年制により教育を展開する学校です。高校段階からの新規入学者はありません。

併設型の中学校・高校

同一の設置者による中学校と高校の併設による場合です。高校段階からも新規入学者があります。

連携型の中学校・高校

設置者の異なる中学校と高校が連携する場合です。連携中学校から連携高校には、簡便な入試で入学できます。

